

# びろっば

Vol.437 12

## CBRNE災害訓練

表紙の写真

### 医療情報

コロナとの戦いの記録  
〈第3回〉

DMAT 訓練

近森病院附属看護学校  
学園祭

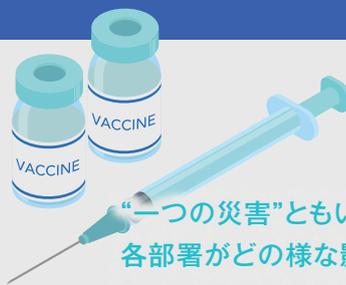


近森病院 近森リハビリテーション病院 近森オルソリハビリテーション病院 からのお知らせ

12月30日(金)～1月3日(火)は休診です。※近森病院救命救急センターは24時間対応いたします。

# コロナとの戦いの記録

シリーズ  
第3回



“一つの災害”ともいえるコロナ禍から、各部署がどのような影響を受けどの様に対応したか、また、どういった思いで奮闘しているのかなどを情報共有として、また後世に残す記録として当誌で取り上げて参ります。

## 画像診断部

画像診断部 技師長 中村 伸治  
診療放射線技師 なかむら しんじ



### 防護衣の不足は工夫して

2020年春、新型コロナウイルス感染症が拡がり始め、巷ではマスクや帽子、防護衣が不足しましたが、近森病院でも同じ状況でした。防護衣の代わりにレインコート、帽子の代わりにシャワーキャップで感染対策を行いました。

### 大型UV-C紫外線照射システムの導入で感染リスクをさらに低減

当初は消毒も「アルコールや次亜塩素酸などで拭いて乾燥させる」でした。現在は、清拭による消毒と併せて補助金導入したUV照射装置によるUV照射を行うことで、さらに安全に次の患者さんを撮影室に迎えられます。

### 病院内で感染を拡げないために2人体制で撮影を

コロナ患者さんの対応は、当初から2人で行うと部内で取り決めていました。1人は個人用防護具(PPE)着用の上、患者さんと接触し撮影装置には一切触らない。もう1人が位置を合わせて装置を動かします。

一般撮影室は奥の4番、CT検査は5番撮影室とし、コロナ患者さんと一般患者さんとを分け、感染が拡がらないように、そして技師が感染しないように気をつけました。

2020年末には感染が拡がり、近森病院で入院のコロナ患者さんを受け入れる準備が始まりました。回診車による撮影を想定し、あらかじめ作成していたマニュアルを実際の現場に合わせて手直しし、病棟でのシミュレーションを行い、PPE着用指導を感染対策の看護師から受けました。回診車で撮影に行くときも必ず2人で赴き、患者さんに触れる人、撮影装置を操作する人を分担しています。これからも、患者さんと技師含め、病院内で感染が拡がらないよう、創意工夫して業務を行いたいと思っています。



撮影後UV照射を行っている。(2020年8月～高知で初導入。現在3台が稼働)



ゾーニングされた撮影室への入退室の際にはPPEの着脱が必要になるため、撮影中も室内で待機する運用に。そのため、PPEの下に放射線防護衣を着用している。

▼CU病棟に回診車で撮影に向かう



撮影の体位などを調節している。

# 薬剤部

薬剤部 部長 筒井 由佳  
つつい ゆか



## 安全な薬物療法のために ～新薬の情報収集、提供など～

この2年半の間に複数のワクチンや治療薬が開発、承認されました。通常より短い期間で承認されているため購入や使用にあたっては多くの規制が設けられています。薬剤部では新しい薬剤が承認されると厚生労働省や製薬メーカーから薬剤情報を収集し、注意点の把握、購入手続き、保管管理、運用方法の検討、他職種へ情報提供など安全に薬物療法が行えるよう取り組んできました。

## 医師への処方支援、服薬指導、 保険薬局とも連携

治療薬の中には併用禁忌薬の多いものや腎機能低下による投与量の減量が必要な薬剤もあるため、医師からの問い合わせを受けて、投与に問題がないかを確認し医師をサポートしています。オーダーの代行入力や医薬品サポートセンターへの患者登録、注射薬の混合調製、看護部への投与手順の説明、また外来患者さんへの経口抗ウイルス薬の服薬指導や処方後の電話による経過の確認、保険薬局との連携窓口としての役割も果たしています。

## 医薬品の供給不足へ対応

国内で感染が確認された当初は消毒剤、人工呼吸器を必要とする重症患者増加時には麻酔薬や鎮静薬、第7波では解熱剤や咳止めの使用量が全国で増加し、一時的な供給不足に陥ることがありました。消毒剤が不足した時には入手できた濃度の異なる消毒剤を有効な濃度に院内で調製し、現場で使用する容器に小分けして払い出すことで消毒剤の欠品を防ぐようにしました。内服薬や注射薬の不足に際しては院内の在庫調整、採用薬の変更などの対応、また保険薬局から在庫不足の相談を受けることもあります。その都度、代替薬を提案するなど医師と相談して対応しています。

## どのような時でも安全で有効な薬物療法を

感染拡大時でも急性期医療に対応するため医薬品の調剤、供給を滞らせるわけにはいきません。持参薬の取り扱いや換気、入室時の手指消毒といった薬剤部内での感染防止対策の徹底はもとよりスタッフに感染者が多数発生し業務の継続が困難になった場合に備え、勤務できるスタッフ数に合わせて業務の実施範囲を制限し、24時間の医薬品供給を守るBCP(事業継続計画)を策定しました。

これからも薬剤部ではどのような時でも安全で有効な薬物療法を患者さんに提供できるよう全力を尽くしていきます。



どんどん増えていった治療薬の1例

左：イムデビマブとカシリビマブ 右：ニルマトレルビル/リトナビルとモルヌピラビル



薬剤部の無菌室で、抗体カクテル療法のため、カシリビマブとイムデビマブを混注している様子(2021年8月撮影)



2021年3月10日、初ワクチンが近森病院へ到着。取り扱いが難しいワクチンの温度・期限管理、また他職種と協力して接種会場でワクチンの調製と準備を行うことで円滑にワクチン接種を進めることが出来た。



2021年3月18日、第1回接種会場の様子。会場の隅の衝立裏では、看護師と一緒にワクチンを必要量ごとにシリンジに引き分ける作業を担当。



▲ 現場から回収した容器  
消毒剤容器に小分けしている様子 ▶

# 災害訓練

近森病院は2007年4月に日本DMATに、2009年9月に災害拠点病院に指定され、まさかの時でも地域医療の最後の砦の役目を果たせる病院として常時訓練を行っています。

## CBRNE災害訓練

～「まさか」の災害に  
対応するために～

2022年10月29日

近森病院 救急科 科長 三木 俊史  
日本DMAT隊員 みきとしふみ



### CBRNE(シーバーン)とは

CBRNE(シーバーン)とは、化学(chemical)・生物(biological)・放射性物質(radiological)・核(nuclear)・爆発物(explosive)の頭文字を取ったもので、これらによって発生した災害をCBRNE災害と言い、テロ攻撃の手段や大規模な事故災害の原因となるものです。

### 当日の気付きをマニュアルに更新

今回10月29日に化学事故に伴う災害を想定し、CBRNE災害時に円滑な対応ができるよう訓練が行われました。除染活動のための資機材搬送及びテント設営を行い、防護装備の着脱手順や検査特定機器の使用方法などを確認しながら、実際の動線の流れを訓練しました。今回の訓練を通して様々な課題も上がったので、これを基にマニュアルを改訂し、共有していきたいと思えます。

### 例え「まさか」の時でも ～地域医療を守る最後の砦として～

CBRNE災害はそれ自体人々にとって「まさか」の代表格と言えますが、東日本大震災では、福島第一原子力発電所の崩壊、そして放射能汚染が起こり、多くの人々にとって想定外の「まさか」であったことは言うまでもありません。昨今の世界情勢において、テロ攻撃も含めその「まさか」の災害は、いつ何時も想定外に起こり得ます。今後も複雑多様化する災害に備え、訓練や院内体制の整備を進めていけたらと思います。

▶ 両端は化学防護服で、レベルによって使い分ける。(左は液体防護用密閉服、右は浮遊固体粉じん及びミスト防護用密閉服)中央は患者役で、防寒用シートを羽織っている。



### 除染活動(テント内の流れ)

1

防護服を着たスタッフがゾーニングされたテントへ患者さんを運ぶ。



2

テントは縦長で3室に分かれ、1室目で、汚染された服を脱衣(訓練では着衣のまま)。



1室目

3

2室目でシャワーにより汚染物を洗浄。



2室目

4

3室目で清潔な病衣を着せる。



3室目

5

汚染物が洗浄された状態で、院内に搬入、治療へ。



# DMAT訓練

近森病院 救急科 日本DMAT隊員  
久 雅行 ひさ まさゆき

## 2022年、2回の訓練に参加

日本DMAT隊員となり4年目の今年、2回の訓練を受けてきました。1回目は7月に高知で四国DMAT実働訓練があり、県庁で調整本部の活動訓練を行ないました。2回目は10月に和歌山県で政府訓練があり、日本赤十字社和歌山医療センターで病院支援の活動訓練を行なってきました。いずれも南海トラフ地震を想定した訓練で、有意義な経験をさせていただきました。

## DMATの活動内容

DMATの存在は知っていたものの、自分自身隊員になるまで実際に何をしているのか、詳しく知りませんでした。DMATの活動内容は災害現場での応急処置だけではなく、指揮系統の確立からトリアージ、搬送まで多岐に渡ります。当然その全てを一人で担うのではなく、各チームが指揮者の管理の下で動くことが非常に重要となります。また「ここまでがDMATの役割」といったものは基本的になく、災害支援に関わるあらゆる業務が活動内容となり得ます。



左：筆者、右：福岡県済生会二日市病院 麻酔科 診療統括部長 宮川 貴圭先生

## ここには何が足りないのか？

政府訓練でお世話になった福岡県済生会二日市病院の診療統括部長 宮川先生が言われていた、「我々が仕事を決めるのではない。『ここには何が足りないのか?』を現地の医療スタッフと共に考えて支援するのがDMATだ」という言葉が印象に残っています(実際は博多弁のとても気さくな先生でしたが)。訓練を経験する度、いつか実働する日を想像して身が引き締まる思いです。



# 保育室 そると 避難訓練

2022年10月20日  
子ども19名、職員11名参加

今回の火事を想定した避難訓練では、5階の保育室から1階まで階段を使って避難しました。

子ども達は、抱っこやおんぶ、保育者と手をつないで階段を降りました。歩いて降りたお友だちは、壁に手を添えながら慌てることなく降りることができていました。



# 論文掲載

## 胃食道逆流症に対するブリッジ(腰上げ)嚥下訓練



近森リハビリテーション病院  
リハビリテーション科  
科長  
**青山 圭**  
あおやま けい

閲覧は  
こちらから →



論文名

Bridge Swallowing Exercise for Gastroesophageal Reflux Disease Symptoms: A Pilot Study

掲載誌

Progress in Rehabilitation Medicine 2022; Vol. 7  
(日本リハビリテーション医学会 発行)



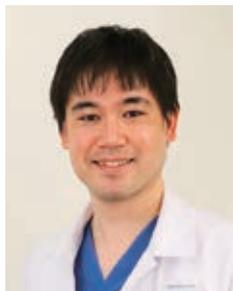
### 食道を鍛える訓練

嚥下とは、口のなかに食物をとりこんで胃に至るまでの過程です。嚥下障害領域では、口腔期、咽頭期、食道期などに分けて考えられます。この中で食道期、つまり食道を鍛える訓練はこれまでありませんでした。

また、胃食道逆流症(GERD)は頻度の高い疾患です。胸やけなど煩わしい症状や、食道粘膜障害の原因となったり、患者さんによっては逆流した物で誤嚥をしてしまうこともあります。

以前に座位→仰臥位→ブリッジと重力に逆らう姿勢につれて、食道の収縮力やLES(食道と胃の境目の括約筋)の機能が高まることを報告しました。これが食道を鍛える訓練に

## 心筋梗塞の診断は難しいです



近森病院  
循環器内科  
**小松 洵也**  
こまつ じゅんや

閲覧は  
こちらから →



論文名

Acute Left Circumflex Coronary Artery Occlusion — Diagnostic Problems of Initial Electrocardiographic Changes —

掲載誌

Circulation Reports. 2022; 4(10): 482-489, The Japanese Circulation Society(Tokyo, Japan)  
(日本循環器学会 発行)



### 専門医も難渋する心電図変化に乏しい胸痛

当院では年間200人以上の心筋梗塞を含む急性冠症候群の患者さんが緊急入院されています。心筋梗塞診断のgold standardは今も昔も「心電図」ですが、心筋を栄養する3本の冠動脈のうち、特に左回旋枝が原因の場合には心電図変化が乏しいことがしばしばあり、専門医でも診断に難渋する場合があります。

### 左回旋枝原因の心筋梗塞に注意

今回5年間で当院に入院した計1,000人以上の心筋梗塞患者さんの中から、左回旋枝が原因であった

## 初めての論文投稿



近森病院  
初期研修医2年目  
**廣瀬 聡一郎**  
ひろせ そういちろう

表紙で、廣瀬医師の論文名と図表が取り上げられています! →

論文名

外傷性腹部大動脈急性閉塞に対して血栓除去術と大腿動脈-大腿動脈交叉バイパスを施行し救肢した1例

掲載誌

「心臓」2022年11月15日発行  
第54巻 第11号(11月号)  
(日本心臓財団・日本循環器学会 発行)



### 症例毎に治療戦略を考える

今回、日本心臓財団・日本循環器学会発行「心臓」に論文を投稿しました。外傷性急性大動脈閉塞の症例報告です。外傷性急性大動脈閉塞は交通事故による外傷などを契機に、血管内に血栓が形成され発症する疾患です。稀な疾患であることから治療法はガイドラインでも明言されておらず、腸管などの合併損傷の存在も考慮する必要があることから、症例毎に治療戦略を考える必要があります。更に大動脈閉塞に伴う虚血時間が長くなると救命が

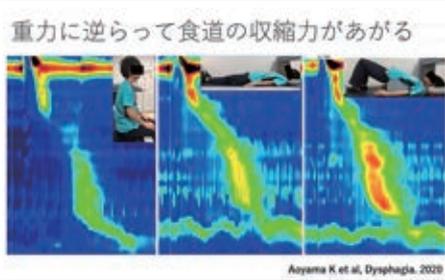
応用できないかと、藤島一郎先生をはじめ多くの先生方のご指導のもと、今回GERD症状を有する方にブリッジ嚥下の訓練を行っていただきました。

### GERD症状が有意に改善

結果としては訓練前後でGERD症状が有意に改善し、内視鏡所見が改善した方もおりました。また、腰の下に枕やクッションを使用して、もたれかかって嚥下するだけですので脱落者もいませんでした。

私自身2本目の論文が受理され喜ばしいですが、重度のGERD患者での検討やコントロール群の設定など、まだまだ課題があります。

臨床業務が中心としながらも、少しでも他施設との研究に携わって将来「GERDの治療選択肢の1つにリハビリも!」となるように頑張りたいです。



### 指導医 コメント

社会福祉法人 聖隷福祉事業団  
浜松市リハビリテーション病院 院長

藤島 一郎 先生  
ふじしま いちろう



青山先生の論文は食道期の嚥下障害に対するリハビリテーションというこれまでにない大きな可能性を秘めた研究です。

一つは「腰上げ」で嚥下をすると重力に逆らって食道の蠕動が高まることを示した報告で、もう一つは「腰上げ空嚥下訓練」をするとGERDの症状が取れ、内視鏡でも逆流性食道炎が治ったという報告です。

これまで平滑筋である食道を鍛えることなど、だれも考えつきませんでした。今後全人類の福音になる可能性を秘めている論文だと思います。

方の心電図を評価・解析し、診断・治療までに要した時間や予後評価を行いました。結果として約1/3の症例で来院時には心電図変化がなく、入院後にST変化の出現、血液検査で心筋マーカーの上昇があり緊急カテーテル検査が行われていました。心電図変化のない症例では心エコー図で異常がみられない傾向もあり、診断をより難しくしている要因と思われました。心電図・心エコー図・血液検査が正常でも、原因不明の胸痛では左回旋枝の心筋梗塞を必ず鑑別にあげる必要性、慎重な経過観察が重要というメッセージを、高知県における循環器救急の最後の砦である当院から世界へ発信できたことは非常に有意義と思われまます。

「research for clinical, not research for research」の精神で、自分が思い描く臨床医の姿を今後も追究していきます。

### 指導医 コメント



学術担当顧問 土居 義典 といよりのり

今回の論文は小松先生が2年程前からデータ収集・解析に取り組み、世界トップレベルの欧州心臓病学会で昨年(2021年)8月に発表し、さらに新しいデータを加えてまとめあげたものです。

私たちの日々の診療は、これまでに蓄積された過去の医学・医療情報に基づくものであるのに対して、医学論文の作成は未来の医学・医療に新しい情報を提供する作業です。学会発表も大切ですが、その情報はすぐに忘れ去られ、その後に活用されることはありません。英文論文として情報発信してはじめて未来の医療への貢献の道が開かれることになります。

意欲のある若手の先生方の学術活動がさらに活発になるようにサポートしていきたいと思っています。

難しくなることから、迅速かつ確実な判断・治療が重要な疾患であると言えます。今回の論文ではその治療戦略について考察しました。今後、類似症例に遭遇した方の助けとなれば嬉しいです。

### 失敗だけでなく成功からも多くの気づきを得る

本症例は救命・救急できた点で成功した症例であると言えます。失敗から学ぶことも大切ですが、働く中で常に最善を尽くすように努めている自分達にとって、成功から学ぶ姿勢も大切であるように思います。今回の論文のように、成功体験から多くの気づきを得られるよう日々精進し、次の論文へ繋げたいと思います。

最後に、自分にとっては初めての論文投稿であり、スマートとは真逆の執筆になりました。ご指導くださった先生方に感謝申し上げます。

### 指導医 コメント



近森病院 副院長  
兼 心臓血管外科  
主任部長

入江 博之  
いりえ ひろゆき

初期研修1年目の論文!

今回の症例報告は、治療に関して、彼が実際に判断を下したり、施行したりしたわけではありません。しかしながら彼が考え、悩み、やっとまとめあげたものです。もちろん、仕上げにあたっては治療に関係した上級医達がアドバイスをしました。症例報告とはいえ、さまざまな文献を自分で読み、治療方法などを勉強し、査読者達とのやりとりもしました。この過程を自分の力でやりとげたことに価値があると思います。ぜひ、自分で緻密な文章を書く経験を初期研修や専攻医修練の一環として体験されると良いと思います。

学会参加

# 医療マネジメント学会 参加報告

～3年ぶりのオンライン開催～

2022年10月23日 / 当番病院: 高知医療センター

近森病院 循環器内科 西村 祐希 にしむら ゆうき



## 当院アレンジの止血方法を紹介

第18回日本医療マネジメント学会高知県支部学術集会で、『遠位橈骨動脈(DRA)アプローチの利点と当院における止血方法の検討』について発表しました。DRAは2018年から当院で採用している、カテーテルの穿刺部位のひとつで、橈骨動脈のさらに末梢にある動脈です。止血方法は当院でアレンジしたミルフィーユ法を用いており、橈骨動脈の閉塞リスクと出血リスクが低いです。さらには従来の穿刺部位に比べて、止血に必要な手間や時間が少なく、患者さんとスタッフの負担が減り、コストも安いなど多くのメリットがあります。

## 来年度は近森病院が当番病院に

本学会は来年度に川井副院長兼循環器内科主任部長が大会長を務める予定となっております。

います。私自身、初めて本学会に参加しましたが、他の職種や病院のマネジメントに対する様々な取り組みを知ることができた学会でした。

## マネジメントと働き方改革

「マネジメント」とは「資源や資産・リスクなどを管理し、経営上の効果を最適化しようとする手法」といった意味があるようです。働き方改革が進んでいく中で、質は落とさずに効率化を求められる状況となっており、少し「ドライな働き方」をせざるを得なくなってきています。現場では多かれ少なかれ戸惑いがあるのが現状ですが、働き方改革の一部に携わっている身として、少しでもリスク(ちょっとした不満やグレーな部分)を管理して、最適化(雰囲気明るく)していくことが、病院にとってのプラスに繋がればとも思っています。



資格取得

## 脳血管内治療専門医

### 専門医になりました

近森病院 脳神経外科 科長 西本 祥大 にしもと しょうた



このたび日本脳神経血管内治療学会専門医を取得しました。脳血管内治療はカテーテルを用いて行う治療で、脳動脈瘤のコイル塞栓術や脳梗塞に対する血栓回収術が有名ですが、その他にも動脈狭窄に対する血管形成・ステント留置術、硬膜動静脈瘻や脳血管奇形の塞栓術、腫瘍塞栓術、外傷に対する血管塞栓術など対象となる疾患は幅広くあります。今や血管内治療は脳外科医にとって必要不可欠な技術になっています。デバイスの進歩もめざましく次々と新たなエビデンスが出ており、専門医取得後も日々勉強が必要と痛感しています。当院でも血管内治療件数は年々増加しており、専門医として患者さんの治療の一助となれるよう頑張ります。



## 超音波専門医

### 時の流れを感じた試験

2022年10月1日付で超音波専門医を取得しました。5年前に超音波医学会に入ってから年月日の流れの速さと、自分と周囲の環境の変化に驚いています。また、超音波物理の試験問題でsin、cosなどを高校生ぶりに見て当時は懐かしくなり、物理の教員になった高校の友人に久しぶりに連絡を取りました。そして、専門医取得に際して、過去の自分で施行した心臓超音波のレポートを複数提出するのですが、昔の自分のレポートは荒削りながらも、見ていて恥ずかしくなるほど熱意が伝わってくるものが多く、今の自分にはないものを感じました。普段あまり気にしない自身の変化を実感できる良い機会でした。



近森病院 循環器内科 科長 菅根 裕紀 すがね ひろき



# 地域医療研修

2022年9月26~30日 / いなん 渭南病院

渭南病院は土佐清水市の地域医療を長年守り、住民のニーズに応えるため工夫を凝らして救急から在宅まで一貫した医療を行っている病院です。今回、その地域に密着した看護の在り方を学ぶため、また人事交流のために、渭南病院へ研修に行ってきました。今後、当院でも、渭南病院の看護師さんを受け入れる予定です。



近森病院 6階A病棟  
看護師

田口 怜那  
たぐち れいな

私は在宅看護に関心があるため、渭南病院の地域医療研修へ参加しました。

渭南病院では病気や障がいがあっても、「この地域で、この家で自分らしく住みたい」という思いを抱いている利用者と、それを実現できるように多職種と連携を取りながら関わる医療者の動きを見ました。医療者は患者さんだけでなく、介護をする家族の心情や体調を気遣ったり、レスパイトケアを提案したりと、疾患だけを見るのではなく人を看て接していると思いました。また、助産師が院外で助産活動をしたり、看護部長が自殺防止のために地域を巡回したりと、病院の枠を越えて地域がよりよくなるようにと活動されていました。

私たち近森病院も、救急病院として地域の為にできることを行っていきたいと思いました。



近森オルソリハビリテーション病院  
3階 看護師

高芝 真智子  
たかしば まちこ

今回、渭南病院で行われた5日間の地域医療研修に参加しました。

訪問看護や往診では、片道30分かかり利用者さんの自宅まで行き入浴介助や、処置、点滴などを見学しました。看護師さんと利用者さんとの関わりを見て、その人らしい生活に寄り添い支えるということはこのことだと思いました。

地域助産では、生まれる前から

一貫して支援を行なっていることがすごく魅力的でした。

サービス付き高齢者向け住宅では調理レクと一緒にカレー作りを行いました。面会も制限されている中で、研修生が来るのを楽しみにしてくれており、コロナ禍で地域の高齢者の方の人的交流が途絶え、本当に寂しい思いをしているのだと感じる事ができました。

最終日には、院長先生おすすめの足摺海底館やSATOUMIの観光、キャンドル作り体験でリフレッシュすることができました。

今回この研修に参加して、今後在宅看護へ携わり、生活を支えることができましたと思います。

研修生を快く受け入れて頂いた、地域の方や渭南病院の職員の方、関連施設の方には感謝の気持ちでいっぱいです。

## 寄稿



近森会グループ 岡本充子統括看護部長と、近森リハビリテーション病院薬剤部 中野克哉科長が寄稿した、『超高齢者の緩和ケア』が出版されました。

## ハッスル研修医

### 半年を終えて

初期研修医 1年目  
(高知大学・近森病院たすぎけプログラム)

高島 惇志  
たかしま あつし

医師として働き始めて半年が経過し、研修医1年目も折り返しを迎えました。この半年間で救急科、消化器内科、循環器内科で研修させていただきました。非常に忙しくも多くのことを学ぶことができ、充実した毎日を送ることができています。

過去と同様の場面に出会った際に、指導・サポートを受けた部分を独力でこなせたことが徐々に増え、自信や更なる向上心に繋がっています。しかし、まだまだ至らぬ点も多々あり、反省と復習の毎日でもあります。近森病院では、上級医の先生方だけでなくその他の医療スタッフの方々も研修医に対して真摯に向き合ってください。自分もチームの一員として医療に携わっていると実感し、そのことが少しでもチームへと還元出来るように、と努力する活力に繋がっています。

まだ医師としての自己研鑽の日々は始まったばかりですが、志高く初期研修に励んでいきたいと思っています。



近森会グループで元気に働く仲間を紹介します

# 血管造影装置 B5カテ室 改修工事実録

診療支援部  
施設用度課  
課長代理

宮下 公将

みやした まさゆき



9月26日に本館Cゾーン3階の血管造影の1室(通称B5カテ室)の更新が終了しました。これまでも様々な大型医療機器の更新に関わりましたが、今回はとにかく課題と途中の紆余曲折が多く、構想から約1年8ヵ月と前例のない“難産”でした。院内・院外の関係者が一丸となることで無事、運用再開にたどり着けましたので、ここで印象深かったことを振り返り、報告させていただきます。



スタート!

## 1 2021年2月

透視アームが1本から2本になるため、部屋の広さが足りない。重要エリアでのスペース確保や工事の実施方法に悩む。本当にできるのだろうか…。

## 2 2021年5月

建築業者の担当者が交代となり、なかなか息が合わない。血管造影装置メーカーとの調整も課題が次々に見つかり、いつまでも終わらない…。

## 3 2021年6月

血管造影装置に連携させる医療機器が多い!(モニター接続だけで11メーカー16種類)。各機器の配置計画や接続確認など、多くの課題に直面。工事のイメージが練り切れず、着工まで数ヵ月の猶予をもらうことにする。

1回休み

## 6 2022年2月

コロナ禍により全世界の物流不安定が著しい。血管造影装置の納期も遅れ工事延期に。工事間近だったためにショックが大きい。

振り出しに戻る

## 5 2021年11月

前期改修工事(血管造影室以外)開始。診療エリアへ最大の配慮をする。粉塵対策など業者に何度も確認をして徐々に意思疎通できるようにする。



## 4 2021年9月

ようやく諸課題の検討終了。院内外関係者との打合せを実施。精鋭ぞろいの診療各部署の了解を得て工事発注が実現。

## 7 2022年6月

血管造影装置の新たな納期が決まり、院内院外の関係者との打合せ。1年前に比べると方向性の一体感などの手ごたえに違いを感じる。

医療機器・操作モニター配置、各種モニター接続の計画資料



## 8 2022年7月

後期改修工事(血管造影室の拡張)開始。4階の病室に想定外の爆音が響いてしまい迷惑をかける。工事スケジュールや周知方法を精緻化。

## 9 2022年8月

工事現場の事前確認会。院内外の関係者が一致協力し、和気あいあいとした議論をする(上部写真)。違う形での「チーム医療」を実現する!

前に進む!

9月26日  
完成!



## 10 2022年9月

完成間近。医療機器間の連携テストを1週前に実施。課題が見つかり、開始延期のピンチを回避する。最後まで油断はできない…。





近森病院附属  
看護学校

# 学園祭

2022年10月1日

## 3年ぶりの学園祭

近森病院附属看護学校 2年生  
学生自治会長

永島 恭子 えいじま きょうこ



今年度の学園祭は「集まれ近森の祭」をテーマに3年ぶりに開催することができました。9月30日(金)は前日祭として学生と教職員のみで、フリーアナウンサーの笠井信輔さんを迎え「命の絆」をテーマにご講演いただき、28名が献血を行いました。10月1日(土)は学校および近森会グループ関係者の方にご来場を限らせていただいたの開催となりましたが、123名の来場があり、縁日やおばけやしき、韓国料理の提供や、ワッフルとコーヒーのキッチンカーの来場、ステージイベント、バザー等で盛り上がりしました。

感染状況の変化により何度も予定を変更したため準備期間が非常に短くなり、開催できるのか不安でしたが、規模縮小とはいえ、土曜日にはお客様を迎えられ、一緒に楽しい時間を過ごすことができました。



### 各学年の学習成果



## 学園祭が 開催できたからこそ

近森病院附属看護学校 教員

田原 佳奈 たはら かな



2年間COVID-19のため自粛していた学園祭。学生たちは授業や実習の合間をぬって一生懸命準備してきました。来場者の方たちと関わっている学園祭当日の学生の姿は、通常の授業では見られないほどキラキラと輝いていました。学生たちも日頃の学校生活だけでは得られない達成感や学びを得たのではないかと思います。来年度はCOVID-19前のような学園祭が開催できることを願っています。

近森会グループの皆様にはたくさんのバザーの品物の出品やお忙しい中でのご来場、本当にありがとうございました。





## リレーエッセイ

## 多趣味

近森病院 8階A病棟 看護師  
安並 瑠以 やすなみ りい



皆さまはどのような趣味を持っていますか？私の身体は「アウトドア」でできています。趣味が多くてどれも上辺を撫でるだけです。とにかく外で遊ぶのが大好きで、天気が良ければどこかに行きたくてウズウズ。青空や夕焼けが綺麗と思ったらすぐ一眼レフやフィルムカメラを持って外に飛び出して無心で撮影…。これは年がら年中に対応した趣味です。

今年の夏は人生で一番と言っているほど、海に潜りまわりました。数年前に体験ダイビングをしたのですが、海の中での呼吸音や小さな魚の戯れに魅了され、今年ダイビングの免許を取得。海の中の洞窟を探検したときは、心拍が爆上がりし更に海の中が大好きになりました。

また涼しい季節にはキャンプをします。前部署から仲良くしている先輩方に色々教わりながら、普段作らない料理から簡単な料理まで幅広く作り食べて、焚き火をすることが楽しい！一目惚れしたテントを最近、抽選販売でゲットしたのでキャンプしまくりたいー！

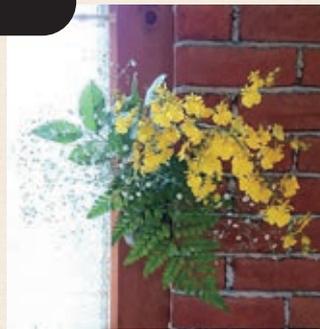
感染対策を行いながら、楽しい日々を送りましょうね。



## 私の趣味

## 生け花

近森リハビリ  
テーション病院  
4階病棟東  
介護福祉士  
高村 枝里  
たかむら えり



以前、近森病院には華道部があり、その縁から生け花を習っていました。花、葉、木を組み合わせる悩みながら生けて、先生から褒められた時は嬉しいですが、それよりも先生のアドバイスや手直しをしていただいた時が、面白く感じます。自分には思い付かない発想で角度や位置を変え、茎を数センチ切って

長さを変えただけで、華やかに変わっていく様子を見て驚くことが楽しいです。2年前から、コロナのため稽古を休むことになりました。稽古から遠ざかることになりましたが、花を見て季節を感じたり、以前一緒に稽古をしていた人の名前を見かけると元気だろうか、難しい花材をあの人には上手に生けていたなあと思ったりします。現在、自分で花を生けるまでのことは出来ていませんが、また落ち着いたら再開をしたいと思っています。



FREE

まるまる 私の〇〇

〇〇にフリーワードを入れて  
語っていただきました

## 私の「ペット」

株式会社近森産業 施設課  
鳥谷 伶司 さん  
とりや れいじ



私の実家ではフレンチブルドッグを飼っています。今から4年前に我が家の一員として迎え入れられすくすくと成長してくれました。現在私は一人暮らしのためたまの帰省時にしか会えませんが、久しぶりに会うとジャンプしながら体当たりしてきたりと全身で喜びを表現し、とても愛嬌のある子で見ているだけで癒されます。

この子に会うのが帰省する一番の楽しみでもあるのでまた一緒に遊んであげたいと思います。



# 今月のちかもり食

## 卵のお好み焼き風

紹介者 エームサービス株式会社  
近森病院本館事業所  
谷岡 文香 さん  
たにおか あやか



今月は患者様に提供しているお食事の中から「卵のお好み焼き風」をご紹介します。

こちらは小麦粉が一切入っていませんが、思っている以上に“お好み焼き感”があり、糖質の制限のある治療食の方でも召し上がっていただけるものになっています。

患者様に喜んでいただける食事を提供できるよう、厨房スタッフ一同心を込めてお作りしています。



# 歳時記



職員の皆さんから届いた、  
季節の風景の便り

言わずと知れた、映画『竜とそばかすの姫』の舞台。秋の行楽に◎。



●写真ご提供：  
診療情報課 中山久江さん



秋風に誘われツーリング、青い空に魅入る。

●写真ご提供：  
ICT推進課 小原健稔さん

ありがとう  
ございました!

# 献血キャンペーン 10月20日

## 結果

- 協力者(受付者数) ..... 59名
- うち400ml献血ができた方 ... 52名

血液センター様からの  
目標(50名)達成!



# 看護学校通信

## 1年生 初めての病棟実習

2022年10月12~14日

近森病院附属看護学校 1年生  
久保 日和 くぼ ひより

**私**達は、「基礎看護学実習Ⅰ」で近森病院、近森リハビリテーション病院で実習させていただきました。今回の実習は、看護師の役割を学び、患者さんとの関わりを通して自己洞察を深めることが目標でした。患者さんとのコミュニケーションでは、演習で習った事が活かせないと思う場面もあり、実践の難しさを感じました。

初めての病棟実習で緊張しましたが、看護師の仕事の幅広さや多職種と連携するチーム医療を体験し、私も看護師になりたいと強く思いました。この実習で得た学びを忘れず、今後の学習や実習につなげていきます。



病棟実習の後、学校に帰ってきた学生が教員に報告している様子

## 編集室通信

モリンガの苗を買って昨年からは植木鉢で育てている。熱帯の樹木で、高知でも冬越しは難しく、去年の1~2月には日中はリビング、夜は暖房のある寝室に移動させた。現在、背が150cm、階段で毎日移動させるのは足元が不安。2年目の冬越しはいかに…。 さきち

## 診療数 令和4年10月

— 電子カルテ管理課 —

### ●近森会グループ

外来患者数 ..... 17,368人  
新入院患者数 ..... 1,044人  
退院患者数 ..... 1,052人

### ●近森病院(急性期)

平均在院日数 ..... 12.54日  
地域医療支援病院 紹介率 ..... 97.20%  
地域医療支援病院 逆紹介率 ..... 332.00%  
救急車搬入件数 ..... 563件  
うち入院件数 ..... 313件  
手術件数 ..... 516件  
うち手術室実施 ..... 323件  
うち全身麻酔件数 ..... 216件

# 細見 直永

Naohisa Hosomi

近森病院 脳神経内科 主任部長  
リハビリテーション科 部長

聞き手／ひろっぱ編集部



「どないかせないかん」  
高知の脳卒中を  
減らすため  
診療に心を注ぐ

高知県の脳血管疾患死亡率(人口10万人対)は中四国でワースト3位(※)。この状況を少しでも改善させたいという使命感を抱き、2020年に近森病院に入職した。

## 趣味は「エビデンスづくり」

取材前に、上のような紹介文を読み、さぞかし子どもの頃から優秀だったのだろうという印象を持った。

「僕、小学生の頃から覚えるのが苦手でしてねえ。医学部は覚えることばかりなので嫌で、嫌で」と初っ端から調子が狂う回答。「民間病院なので診療が仕事。なので、エビデンスづくりは趣味。あ・そ・び! 覚えなくていいから楽しいですよ。」とおちゃらけも交える。そうは言っても、医学論文の実証となれば、膨大な集積や地道な作業の繰り返しだろうから強い意志がなければ続かないだろう。結果、「世界初」の論文が3つ4つ。「脳卒中治療ガイドライン」にもいくつか論文が掲載されている。その原動力を問う



留学していた米スクリプス研究所はノーベル賞も数人出している有名な研究所。近くに有名なゴルフ場があって丸山茂樹選手の応援に行ったことも。留学時代の同僚とは、今でも年に一度は集まり交流を深められている(コロナ禍のためしばらくお休み中)。

と「当然、目の前の患者さんを治したいから。その人が次の脳卒中を起こさないようにするためです」ときっぱり答えた。

## 脳神経内科医として思うこと

脳神経内科医になったきっかけを二つほど話してくれた。一つ目は、臨床実習で脳梗塞患者を初めて目の当たりした時である。昨日まで歩いていた人が翌日寝たきりになった。「なぜこんなことが起こるのか、どないかせないかん」と若き細見医師を駆り立てた。もう一つが、「もう立てないだろう」と思っていた人が、リハビリで一生懸命歩いている姿を見た時。薬だけでなくリハビリの重要性を痛感したという。

会話では、おだやかな口調ながら「どないかせないかん(東国原元知事風だが神戸出身)」という言葉が繰り返された。もちろん口で言うほど易くない。しかし細見医師は「小石一つぐらいにしかなくても、医学の進歩に貢献したい。脳卒中の予防と再発防止に貢献したい」という思いが強い。患者さんが良くなること、一方で治療ではどうすることもできなかった悔しさ、そんな思いが両輪となって、余暇を費やしてまでも「エビデンスづくり」に努めていることが理解できた。

## 脳梗塞と歯周病の研究

細見医師が2010年頃から研究しているものの一つが歯周病との関係。つまり歯科的な治療を受けると脳卒中のリスクが減るという予防医学の研究で、自身も月に1回は歯科医での口腔ケアに通う。「気持ちいいですよ」と押し付けられない感じだったが、実証を

得ている本人からの言葉は説得力がある。

## 休日は、いきもの係

前職の広島大学時代は単身赴任だったが、高知には家族で移住。今は奥様と長男(高2)、長女(小4)と暮らす。「高知に来てからは家族と夕食を取っています」と嬉しそう。あいにく、コロナ禍のため高知観光や美味しいもの巡りなどはほとんど行けていないようで「休日は、ぼーっとしていますよ」と言う。実際は、午前中は患者さんの様子を見に行き、午後は家でゆっくり過ごされるのが休日のスタイルのようだ。「ああ、ペットの亀の水も替えていますね。子どもが買ってきて、かなり大きくなって」と身振り付きで説明してくれる。自宅で家族とゆっくり過ごす時間こそが最高のリラックスタイムなのだろう。



## 脳を診るだけでなく環境も診る 患者さん一人ひとりに 最善の医療を尽くす

10年後の目標を問うと「もちろん高知県の脳卒中患者を減らすこと、それと近森の脳神経内科医の後継者を作ること」だという。「高知の人に酒をやめやと言ってもやめへんですもん、道は長い」と笑う。こちらも苦笑いするしかなかった。

※出典：「平成29年度 人口動態統計特殊報告」平成27年 都道府県別年齢調整死亡率の概況 一主な死因別にみた死亡の状況—

